

吉村和就氏が講演 国内市場の今後予測

JPI



世界の水市場を語る吉村氏

情報提供サービスの日本
計画研究所(IIJPI、武
内利枝社長)は8月23日、
吉村和就グローバルウォー
タ・ジャパン代表を講師に
「世界水ビジネス企業の戦
略と日本企業の課題」と題

したセミナーを開催。商社
や水道関係者など、約60人
が参加した。

セミナーでは吉村氏が、
まず世界の水ビジネス市場
動向を解説。発展途上国や
先進国での民営化の状況、
世界の3大水企業(ヴェオ
リア、スエス、RWE)や
アメリカ・GEやドイツ・
シーメンスなどの戦略や動
向を紹介した。

今後、アメリカでは膜処
理の成長率が10〜15%ほど
と予測され、GEが膜処理
での世界制覇を狙っている
という。

そうした中、今後水道市

場のグローバル化が予測さ
れ、世界的な貿易ルールが
必要になる。そこで、現在
協議されている国際規格・
ISO/TC224に対す
る日本の対応などの動向を
紹介。来年の7月には規格
が発効され、上下水道やO
&M事業に直接影響を及ぼ
すという。

次に、海外から見た日本
市場の魅力や海外企業の日
本での受注例を紹介した。
外資の参入はすでに開始し
ているが、今後国内市場は
縮小傾向で、生き残りのた
めには、複数年契約の推進
や業界の再編成による経営
体力の強化が必要だと述べ
た。

また、日本市場の動向や
企業の戦略などを解説し、
今後は維持管理の時代にな

ると予測。現在、国内でO
&M事業の取組みが強化さ
れているが、さらに今後は
外資と提携し、国内外での
開拓・強化が必要。など、
熾烈になっていく国際水市
場での日本企業の課題など
を述べた。

要が下がって料金が上がっ
ているが、そのほかの事業
では需要が上がって逆に料
金は下がっているという。
これは、水道事業に競争原
理が働かないためだと述べ
た。

海外では、電力・水道・
ガス・通信・廃棄物などの
事業を兼ねるマルチインフ
ラ事業が多いという。国内
でも関西電力の子会社・関
電サービスが、水道料金関
連業務の受託開始したほ
か、東京電力などでも水道
事業への進出を検討してい
ることなどを明かした。
日本計画研究所では、今
後も積極的に水関連の問題
などをセミナーに取り上げ
ていく方針。